

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

理科 小学校

小中高を4分野でつなぎ、デマに流されない科学の目を育てる

10秒でいうと 分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新設。内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理

小学校の理科は、学習内容を物理・化学・生物・地学の4つの「分野」で整理する方向です。小・中・高で目標もそろえます。ただし、小学校の内容を難しくするものではないと、国が丁寧に周知する必要があるとされています。分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新しく設ける方向です。授業時間に「余白」を生むため、内容の精選も進めます。

1 新しく「理科と日常生活」

エネルギー問題や環境問題など、一つの分野に収まらない社会の課題が増えています。そこで、これまで学んだことをもとに、分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新しく設ける方向です。社会・職業との関係だけを扱う独立の内容は設けないとされています。P182 P187

授業では 電気・水溶液・植物などの既習事項を使い、「家庭の省エネ」を多面的に考える学習。そんな内容が方向に沿う一例として考えられます。

2 4つの分野で整理（難しくはしない）

今の小学校は「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域です。次期は、小中高共通で物理・化学・生物・地学の4分野に分ける方向です。今の4領域で育てていた中心の考え方は、別の形で表すとしています。指導方法の違いを否定するものではないとされています。P183 P186

授業では 単元の初めに「これは物理の仲間で、中学校の電流につながる」と子供と確かめる。そんな見通しのもたせ方が考えられます。

3 「科学的な探究」を積み重ねる

小学校から科学的な探究の過程を経験し、中学・高校と積み重ねる方向です。今は校種によって探究の過程の用語が違うことが課題とされています。そこで探究の過程を教育課程全体に位置付け、具体的に示すとしています。学習場面から「特徴を見いだして表現する」ことも共通して示します。P182 P183 P186

授業では 予想→計画→実験→考察の流れを、毎単元同じ言葉で板書し、子供が自分で次の段階を言えるようにする。そんな工夫が一例です。

4 授業時間に「余白」を

理科は、実験の進み具合や再実験で時間を組み替える必要がある教科です。そのため、授業時間に余白を生むことが欠かせないとされています。不可欠でない内容はしぼり、学年間の重なりが大きい部分は整理する方向です。P189

授業では 結果がそろわなかった実験を、余白の時間で条件を変えてもう一度やってみる。そんな時間の使い方が考えられます。

ほかにも変わること（小学校）

- 小学校に分野横断の学習内容「理科と日常生活」を新設する方向 P183 P187
- 学習内容の見直し・精選で授業時間に「余白」をつくる P189
- 小・中・高の学習内容を4つの「分野」（物理・化学・生物・地学）で統一 P183 P186
- 目標と「見方・考え方」を小中高で統一し、社会の情報も対象に P183 P185
- 「科学的な探究」の過程を教育課程全体に位置付け、用語もそろえる P182 P183
- 表形式化は「並列パターン」、「統合的な理解」は平易に示す P186

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。
ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。